第８次大阪府栽培漁業基本計画の対象種検討

第７次計画の対象種

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 魚　種 | 資源量・技術的要因 | 漁業者ニーズ等 | 備考 |
| キジハタ | 栽培漁業の効果が顕著に出ているため、現状放流尾数を維持 | 刺網等の漁業者から要望が高い | 10万尾 |
| ヒラメ | 生産を中止し購入  種苗の購入先の生産業者の技術判断が重要 | 底びき網、刺網等の漁業者から要望が高い | 10万尾 |
| アカガイ | 近年資源量がある程度、増加しており、放流数、放流方法等を検討 | 継続の要望が高い。 | 10→5万尾 |
| トラフグ | まだ、回帰率は低いが、10年程度の調査研究が必要  １万尾の放流では効果が見えにくい。 | 瀬戸内海関係府県で連携して効果調査等継続 | 1→5万尾 |

これまでの対象種

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 魚　種 | 資源量・技術的要因 | 漁業者ニーズ等 | 備考 |
| マコガレイ | 高温、貧酸素に弱く、現在の海域環境では資源の増加は見込めない。 | 特に北部の組合でニーズは高い。 |  |
| オニオコゼ | 一定の資源量がある。  生産時期がキジハタと重なる。 | 漁業者の要望はない。 |  |
| サワラ | 瀬戸内海での栽培・資源管理の効果が顕著、資源量が増加している。  大阪府単独での栽培は難しい。 | 瀬戸内海関係府県でも  ニーズは高い。 |  |
| ガザミ | 自然変動が大きく、栽培の効果が出にくい。  中間育成場がない。 | 抱卵親の保護については要望あり。 |  |

新規検討魚種

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 魚　種 | 資源量・技術的要因 | 漁業者ニーズ等 | 備考 |
| スズキ | 一定の資源量があるので、効果が出にくい。  加温の必要がある。 | マコガレイに代わる魚種として北部で要望あり。 |  |
| クロダイ | 種苗生産の技術はある。 | 漁業者の要望は低いが、  大阪湾のシンボルフィッシュとしての価値 |  |
| マダコ | 放流効果が検証しにくい。  生産技術の向上待ち。 | 漁業権対象 |  |
| ナマコ | 種苗生産にあたり技術的には可能 | 漁業権対象 | 水質浄化 |
| カサゴ | 生産は可能であるが、魚価単価が安く事業効果が出にくい | メバルとともに南部での要望はある。 |  |
| アナゴ | 種苗生産が困難 | 府においても蓄養等の実施例がある |  |
| シロギス | 種苗生産は可能  砂浜が減少しており、放流場所が限定 | 価格が安い。 |  |
| トリガイ | 一定の資源量あり。 |  | 加工出荷 |
| タイラギ | 種苗生産には時期尚早  研究の対象としてはあり。 | 貝毒に強く、一定の要望はある。 |  |
| ウマズラ | 種苗生産は可能 | 漁業者ニーズはある。 |  |